

化」で雲をどう指導するか」というテーマで研修し、成果を報告した。

雲は、身近に観察される現象として存在し、日時、季節、地形などによって様々に変化し、小・中学校の気象教材として重要なものであり、中学校の理科の単元「天気の変化」においても十分な活用が期待されている。しかし現実には雲の指導法の研究は少なく、適切な指導はあまり行われていない。そのような状況において西銘会員は、雲の観察スケッチを中心とする授業を設計し実践した。特に、台風接近時や前線通過時を重視した。また、雲のスケッチや写真をもとに、10種雲形の検索表を作成し、雲の発生を真空ポンプや大型フラスコを利用して説

明する装置を作成し、さらに、沖縄特有の雲の現象を観望望気の言伝えとともに教材化した。

今後は以上の事項について、授業実践を通して充実させていくとともに、「ひまわり」の雲画像との比較もとりいれ、質の高い教材に作り上げていこうとしている。

文部省の学習指導要領が、実験観察の重視とともに、気象衛星の雲画像などの活用を重視する方向で改正された現時点において、西銘会員の研究は新しい気象教育のあり方の提案でもある。学習内容の具体的事例を充実させてよりよい気象教材を開発していこうとする同会員の意欲を高く評価し、本学会はここに奨励金を贈るものである。

## 平成元年度 日本分光学会

### 環境科学部会・光源部会合同シンポジウム開催のお知らせ

主催：日本分光学会

日時：平成元年11月21日（火）

場所：国立教育会館 東京都千代田区霞が関3-2-3  
（地下鉄：銀座線虎ノ門：千代田線霞が関）

参加費：会員 3,000円、非会員 4,000円(含要旨集代)  
学生 無料(要旨希望 1,000円)

主題：地球環境を診断する最近のスペクトロスコピー  
プログラム

10:00~10:50 地球環境計測におけるスペクトロスコピー

小川 利紘（東大・地球物理）

10:50~11:40 紫外吸収を利用した成層圏のオゾンの遠隔計測

中根 英昭（国立公害研）

13:00~13:50 赤外吸収を利用した大気中微量成

分の測定

牧野 行雄（気象研）

13:50~14:40 パルス光音響法を利用した大気中微量成分の計測

加藤 健次（化学技術研）

14:55~15:45 レーザ誘起イオン化分光法による水中微量成分の計測

宮崎 章（公害資源研）

15:45~16:35 レーザ励起蛍光法を利用した湖沼中汚染物質の測定

古田 直紀（公立公害研）

連絡先：〒101 東京都千代田区神田淡路町1-13

グリーンビル 301号

社団法人 日本分光学会

（電）03-253-2747